

第 22 回アジア・オセアニア周産期学会学術集会（FAOPS）開会式
秋篠宮皇嗣妃殿下お言葉（和文仮訳）

2023 年 10 月 7 日

本日、第 22 回アジア・オセアニア周産期学会学術集会（FAOPS）の開会式に出席し、皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

アジア・オセアニア周産期学会（FAOPS）は 1978 年に創立され、アジアおよびオセアニアの産科医、新生児科医、小児外科医、麻酔科医、精神科医、助産師・看護師をはじめとするヘルスケアの専門家などの周産期医療に携わる様々な職種の方々が集い、お互いの取り組みや研究内容を共有し、課題について話し合う重要な学会と伺っております。これまで、この領域に関わる皆さまが、コロナ禍の厳しい状況下においても、母と子の生命と健康を守るために力を尽くされてきたことに心より敬意を表します。そして、5 年ぶりに対面で開催されるこの学術集会の準備や運営に携わってこられた方々に深く感謝いたします。

本学術集会のメインテーマは、“SDGs for maternal and neonatal health across the Asia-Oceanian region” です。SDGs がめざす「誰一人取り残すことのない」周産期医療の取り組みにむけて、アジアとオセアニアの国々が協力し、ともに解決を推進しなくてはならない課題は多く、開催国である日本の果たす役割は大きいものと思われま

す。女性が安心して子どもを産み育てるためには、心身の健康が重要ですが、これには社会的・経済に安定していることも重要な要因となります。しかしながら、アジアとオセアニアの国々の中には、周産期死亡率や妊産婦死亡率が高い国もあれば、救命率は向上しても医療ケアが必要な子どもや母親が増えている国もあります。こうしたさまざまな社会環境の中に置かれている女性のニーズに合わせて、周産期医療の分野で求められていることは多様化しています。近年は、妊娠前の女性とパートナーのプレコンセプション・ケアをはじめ、命を失った子どもの親や家族に対する心理的サポート、ストレスを抱える妊産婦への心理的ケアや、母子への継続的な支援なども重要性が増しています。

このように多様化する課題に対応するためには、周産期医療に携わる私たちの連携がとても大切です。参加される皆さまが、本学術集会での講演、研究発表やワークショップを通じて、活発に意見を交換し、交流を深めることを期待しております。東京における本学術集会が、皆さまにとりまして実り多きものとなり、周産期医療がさらに発展していく契機となることを心から願っております。

世界中の子どもがよりよい環境で生を受け、母親は安心して妊娠し、健康な妊娠生活を送り、安全に出産し子育てができることを祈念して、式典に寄せる言葉といたします。